

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 11月 6日

【評価実施概要】

事業所番号	2270300599
法人名	有限会社 源氏陸運
事業所名	グループホーム 源氏庵
所在地 (電話番号)	静岡県伊豆の国市四日町346-2 055-949-2255
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年9月20日

【情報提供票より】(平成19年 08月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 03 月 01 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.5

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	11,655 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(平成19年08月29日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77.9 歳	最低 53 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	花の丘診療所 ・ 韮山医院 ・ 寺田歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

韮山代官屋敷や時代劇場等に近い 田園風景豊かな環境にある。地元
に愛されるホーム作りを目指した創業者の遺志を引き継ぎ、その妻・娘夫
婦・息子が中心となり、地域密着型のホーム作りに勤しんでいる。ホームも
区民として神社祭り・地元の文化祭・商工会行事等に参加している。運営
理念は「自然に 自分らしく 共に生きよう 源氏庵」を作り上げた。また、
その説明の中で「地域社会との交流や家族との連携を大切にしてい
きます。」と謳い、地域密着型サービスの先取りをしていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘事項に対しては、確実な申し送り・職員の継続的な研修・家族への情報提供等、多くの点で改善が見られた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審に当たり、自己評価については数ヶ月前から職員全員で分担して取り組んだ。内部・外部の評価の意義を理解し、それを生かそうとする姿勢が見られた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域密着型を促進する運営推進会議は今まで4回開催され、ホームの状況報告と共に、非常災害時の応援体制・台風時にGHを避難所に利用等前向きな話し合いが行われている。市町村との報告・相談等の連携が図られており、市の呼びかけによる地域ケア会議にも参加し、共にサービス向上に取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に相談窓口が明記され、ご意見ポストも設置されており、ご家族の意見に傾聴する工夫がされている。事業所での暮らしぶり等、毎月報告されていたが、最近月1度の支払いをホーム持参払いに変更し、その場を家族との情報交換の場として活用している。その結果、家族からの信頼も厚く、アットホームな雰囲気に対し、多くの感謝の言葉が寄せられている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	創業者の想いもあり、元々地域との交流を大切にしており、各種の行事に参加し、地元との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針は、開設時全員で検討し「自然に 自分らしく 共に生きよう 源氏庵」を作り上げた。また、その説明の中で「地域社会との交流や家族との連携を大切にしていきます。」と謳い、地域密着型サービスの先取りが行われていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、ホーム内に大書して貼り出され、ミーティング時に基本に戻ることを確認し合い、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	創業時から元々地域との交流を大切にしており、各種の行事に参加し、地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の指摘事項に対しては、6項目中5項目の改善が見られた。今回の自己評価についても、数ヶ月前から職員全員で分担して取り組み、評価の意義を理解し、それを生かそうとする姿勢が見られた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今まで4回開催され、非常災害時の応援体制・台風時にGHを避難所に利用等前向きな話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	報告・相談等の連携が図られており、市の呼びかけによる地域ケア会議にも参加し、共にサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での暮らしぶり・写真・薬の変更等、毎月報告されていたが、最近月1度の支払いをホーム持参払いに変更し、その場を家族との情報交換の場として活用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記の場を利用して家族の意見を聞き、運営に反映している。また、重要事項説明書に相談窓口が明記され、ご意見ポストも設置されており、ご家族の意見に傾聴する工夫がされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動がほとんどなく、日々馴染みの関係を築きながら介護が実践されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度中に全職員の資格取得を目指しており、計画的に内外の研修参加に理解を示している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の呼びかけによる地域ケア会議に参加し、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望者の見学や、入所を前提として、1～2週間の体験をしてもらったりして、馴染みながらサービスが受けられるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	黙ってやってしまう介護を戒めており、声掛けを優先し、食事の手伝い・掃除・洗濯等できることをできる範囲でやっていただく姿勢を貫いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の細かなアセスメントや日々の介護の中で利用者が何を望んでいるかを探り出し、利用者一人ひとりの希望や思いを理解し、出来るだけ希望や意向に沿った暮らしが出来るよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の中で気付いたことや利用者の希望を職員が経過記録に交代で記しており、面会時の家族の意見と併せて個々の利用者に相応しい介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況を全職員が理解して、現状に即した介護支援がされているが、定期的な見直しの跡を介護計画書から読み取ることが出来なかった。	○	細やかな介護サービスの特徴とするグループホームにおいては3ヶ月に一度、変化がある場合は随時の見直しが必要とされている。介護計画作成の為に予定表を作成するなど、スムーズな見直しのための工夫をお願いしたい。計画作成日など重要な意味を持つ場合があるので、確実な記入が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所希望者の体験入所や協力医受診の際の付き添いなど対応している。豪雨の際に利用者の家族がホームを避難場所として利用するなど、時に応じて機能を活かしている。また、ホーム長が物造りを得意とすることから、職員の提案で利用者へ合った介助スプーンを製作するなど、独特の支援もされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を受診する利用者には、当該期間中の状況を書面にて報告して適切な診療を受けられるよう支援している。協力医療機関の受診希望者には定期受診の支援をしている。緊急時は家族の希望を聞いて的確な受診が出来るよう柔軟に対応している。職員に看護師がいることも心強い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	既に多数回の終末期ケアを体験している。入居時に家族の方針を確認し、日ごろから協力関係を築いている。折々に家族・協力医・看護師等が話し合い、職員とも方針を共有・連携してホームでの暮らしを続けてゆけるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日誌等、他の家族も目にするものには、イニシャルで表示するなど、個人情報の取り扱いには配慮している。言葉遣いに多少気になることもあったが、利用者が安心して対応していることから、地域の言葉、個々に応じた言葉かけであることが確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	明るい職員の支援により、利用者はゆったり落ち着いて過ごしており、見守りの中で自立度の高い利用者は自由に過ごしていたが、今後レクリエーションなど利用者のレベル差への対応を探ってゆきたいとの職員の声も聞かれた。	○	利用者自身の希望と状況、家族の期待などが噛み合わないこともありがちだが、実態やレベル差に相応しい支援を目指し、職員で課題を作って掘り下げていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモの皮むきやきゅうりの刻み、配膳やかたづけなど利用者は無理せず出来る仕事に取り組み、職員は労いの言葉をかけていた。献立説明の後いただきますの声で、職員も共に食事をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に少なくとも2回は入浴していただき、汗をかいたときなど希望者はシャワーを浴びたりしている。失禁の際にもシャワー浴で清潔に気持ちよく過ごせるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	みんなで取り組む朝の清掃では、モップ拭きや掃き掃除、雑巾がけなどそれぞれが得意とすることを役割として担っている。利用者同士の会話やサポートの場面も見られ、楽しげであった。ボランティアの訪問により踊りや演奏を楽しむ機会も多く、楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の状況にもよるが、田園地域を日常的に散歩している。農業を営んでいた利用者は、稲の生育に興味を持って会話を弾ませていた。地域の劇場での催し物を見たり、公民館活動に参加したり、遠足に行ったりと外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は時間帯によっては開放しているが、事故防止のため家族の承諾の下、鍵をかけている。	○	利用者の抑圧感を防ぐ為にも、見守りやセンサーの設置等により、鍵をかけない暮らしが実現できないか、今一度職員で話し合っていたいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、緊急時の対応について学ぶ機会はあるが、避難訓練などの実施はされていない。	○	日ごろから地域と密接な関わりを持っているので、運営推進会議を利用して避難訓練への参加をお願いし、消防署の指導のもと災害時へ備えていただきたい。また、災害時とは直接関係しないが、日常の事故対策として、ヒヤリハットの活用をぜひ願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜をふんだんに使った料理が供され、便秘が改善した利用者もいて家族からも喜ばれている。水分摂取量は記録されている。お粥や刻み食等個々の状態に相応しい調理法で完食できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居間は毎朝利用者と職員で掃除をしており、清潔で風通し良く心地良い空間となっている。居間に設けられた畳コーナーでは人の気配を間近に感じ、安心して昼寝をしている利用者がいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はすべて利用者が家庭から持ち込んだものである。家族の写真など飾られ、それぞれに心地良く過ごせる居室作りがされていた。		